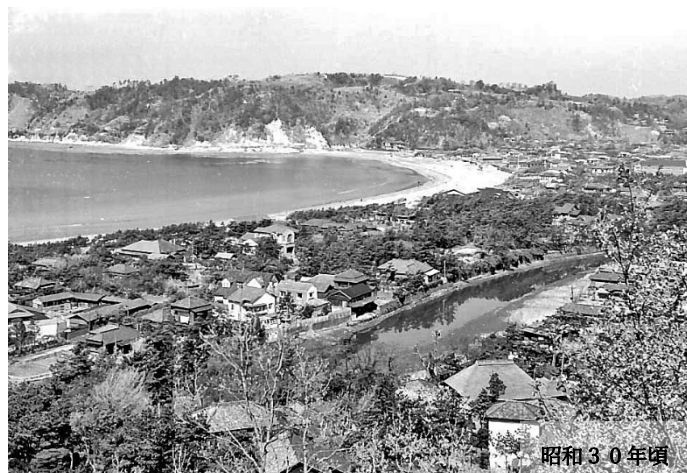


明治大正期、逗子の浜辺はおしゃれな避暑・避寒地でした。



写真提供／逗子市

別荘地だった新宿エリア 歴史家のガイドで「文学散歩」をしてみませんか？

将来文豪と呼ばれることになる、まだ若き作家たち、徳富蘆花、国木田独步、泉鏡花などが逗子に仮寓し、実際に執筆活動に励んでいたのは、横須賀線が開通し、逗子が、別荘地、臨海保養地として開け始めたころでした。芥川龍之介、志賀直哉、里見弴、高橋治、伊集院静らは、いずれも新宿にゆかりのある作家です。中でも尾崎行雄、多田裕計、堀田善衛、石原慎太郎などは、新宿地区内にそれぞれお気に入りの自邸を設け住み続けていました。そんな海沿いのまち新宿ですが、今では別荘地の面影はあまり多くは残っていません。それでも歴史家にガイドをしてもらえば、別荘地時代の遺産をいろいろ見ることができます。晩春の一日、あなたもその魅力を一緒に味わってみませんか？

主催：逗子の文学を学び広める会
後援：逗子市／逗子市教育委員会（予定）

開催日 5月16日（土）小雨決行（荒天の場合は中止）
集合場所 富士見橋上（橋上歩道中央付近）午前9時30分集合
参加費 一人500円（資料・行事保険代／当日集合時にいただきます。）

参加申込：4月1日から。Eメールにて氏名・性別・住所・電話番号・昼食会参加の有無をご記入の上、下記までお申し込みください。定員20名（先着）。

申込Eメール：zushibungaku@gmail.com [問合せ先：080-5548-1628（東海）]

※お預かりした個人情報は、本イベントの連絡および保険手続きのみに使用し、終了後は速やかに破棄いたします。

講師：伊藤一美先生／逗子吾妻鏡研究会代表、逗子市文化財保護委員

NPO法人鎌倉考古学研究所理事、歴史講座講師など。元学校教諭、元逗子市教育委員会勤務。主な著書「新知見 鎌倉の謎を解く」「太田道灌と武蔵・相模」「都市周縁の地域史 逗子の1500年」など多数。

<予定散歩コース> ※平坦な道を徒歩で約2時間の行程

富士見橋—養神亭跡—屋敷通り—黒門—白醉亭跡—東郷橋—逗子開成記念碑—旧なぎさホテル跡—新宿地蔵と野仏—松汀園—旧正力家別邸—旧千葉病院跡—新宿稻荷—旧逗子水族館跡—浪子不動高養寺（不如帰の碑、さくら貝の歌碑） 解散（12時ごろ）

■解散後 オプショナルにて昼食会を予定しています。申込メールに参加有無をご記入ください。
会場：夢庵（逗子なぎさホテル跡地）、各自負担：2000円程度 ※変更になることもあります。



逗子の文学を学び広める会は「逗子ゆかりの文学年表」を作成・公開しています。
← web サイト (<https://sites.google.com/view/zushibungaku/>)
facebook ページ (<https://www.facebook.com/zushibungaku/>) →

